

令和4年度 授業計画書(シラバス)

授業科目名							
柔道整復学13							
学科・昼夜	学年	学期	担当教員名		実務経験		
柔道整復学科・昼間部	2年	3期	住吉 泰之		○		
分野区分	教育課程			講義形式	単位	コマ数	
専門分野	臨床柔道整復学			座学	1	10	
科目概要							
柔道整復師として外傷の対応を正しく行えるようになるため、骨折・脱臼・軟部組織損傷の鑑別診断、処置、後療法、予後における対処で誤りが無いよう、必要な知識を習得すると共に、臨床において重要な技術と患者様を管理する態度を身に付けるよう、それぞれの部分で説明をする。							
目標							
一般目標(GIO) 本講義を学習することで達成されるべき目標		膝部～下腿部という歩行に関する ADLに重要な部位の外傷であり、柔道整復師として取り扱うことが多々ある部位でもあるので、受傷機序～鑑別診断～修復・固定・後療法～予後という一連の流れを想定することができるよう知識を取得する。					
到達目標(SBO) 一般目標を達成するために必要な具体的な内容、各題的な指標(合格基準)		<ol style="list-style-type: none"> 1. 膝関節の構造の特徴、運動の特徴、関節周囲の筋、脈管、神経を理解し選択肢から正しいものを選ぶことができる。 2. 大腿骨脛骨上骨折の発生機序、好発年齢、分類を理解し選択肢から正しいものを選ぶことができる。 3. 大腿骨遠位骨端線離開の3つの分類・治療法を理解し選択肢から正しいものを選ぶことができる。 4. 大腿骨顆部骨折の分類・骨折線・骨片転位・治療法を理解し選択肢から正しいものを選ぶことができる。 5. 脛骨顆部骨折の分類・骨折線・骨片転位・治療法を理解し選択肢から正しいものを選ぶことができる。 6. 顆間隆起骨折の発生機序、メイヤーズ・マッキーバー分類を理解し選択肢から正しいものを選ぶことができる。 7. 脛骨粗面骨折の発生機序、ワトソン・ジョーンズ分類・治療法を選択肢から正しいものを選ぶことができる。 8. 膝関節脱臼の分類となかでも最も多発する脱臼と合併症を理解し選択肢から正しいものを選ぶことができる。 9. 膝蓋骨骨折の分類、主な発生機序・治療法を理解し選択肢から正しいものを選ぶことができる。 					
履修に必要な予備知識や技能							
1年次に学んだ解剖学の膝～下腿～足関節の構造機能の復習をお願いします。							
教科書・参考書							
教科書:「柔道整復理論・総論 改訂第6版」 参考書:「柔道整復学・実技編 改訂第2版」							
受講上の注意							
基本は暗記となるので、短期記憶から中期記憶、中期記憶から長期記憶となるよう、復習を充分に行ってください。							
成績評価方法							
評価方法	定期試験	小テスト (チェックテスト)	レポート	実技試験	プレゼンテーション	その他	(合計)
評価割合(%)	100						100
回数	授業内容				教科書	教材・持ち物	
第1回	既習範囲復習、膝関節部の構造と機能 【膝関節の構成、運動の特徴、関節周囲の筋、脈管、神経】				p.383-387	教科書・筆記用具	
第2回	既習範囲確認、大腿骨遠位端部骨折① 【脛上骨折の発生機序・分類、遠位骨端線離開の分類・治療法】				p.388～p.392	教科書・筆記用具	
第3回	大腿骨遠位端部骨折② 【顆部骨折の分類・骨折線・骨片転位・治療法】				p.388～p.392	教科書・筆記用具	
第4回	下腿骨近位端部骨折① 【顆部骨折の分類・骨折線・骨片転位・治療法】				p.392～p.397	教科書・筆記用具	
第5回	下腿骨近位端部骨折② 【顆間隆起骨折の発生機序・分類、脛骨粗面骨折の分類・治療法】				p.392～p.397	教科書・筆記用具	
第6回	膝関節脱臼、膝蓋骨骨折 【膝関節脱臼の分類、膝蓋骨骨折の分類、主な発生機序・治療法】				p.397～p.399	教科書・筆記用具	
第7回	膝蓋骨脱臼 【膝蓋骨脱臼における発生素因・脱臼分類・主な発生機序・治療法】				p.399～p.401	教科書・筆記用具	
第8回	膝関節部の軟部組織損傷① 【膝半月板損傷の発生機序・検査法、側副靭帯損傷の発生機序・検査法】				p.399～p.401	教科書・筆記用具	
第9回	膝関節部の軟部組織損傷② 【前十字靭帯/後十字靭帯損傷の発生機序・検査法・予防】				p.401～p.404	教科書・筆記用具	
第10回	定期試験					筆記用具	
実務経験と本講義との関連について							
本校卒業した柔道整復師・接骨院勤務歴2年。 柔道整復師として施術現場とかかわる柔道整復理論を講義します。 また、本校のOBとして、特に重視するべき点をお伝えいたします。							
メールアドレス							
sumiyoshi@nihonisen.ac.jp							